

■ 特殊寝台 疾病別選定例

傷病名	身体状況	生活機能低下項目	状態	目標(導入理由)	選定理由	推薦機種・機能	維持・改善点
脳梗塞	■片麻痺	■寝返り ■起きあがり ■立ちあがり ■片足での立位 ■歩行	■つかまれば可	介助なしで安全に離床し、生活全般を自ら行えることを目指す。	左(右)半身麻痺があり、歩行にふらつきがある。起きあがりは手がかりがないと難しく、立ちあがりも困難。	■背上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	歩行に不安を感じていたが、伝い歩く環境が用意できたことにより、室内での生活はほぼ一人ですることが出来るようになった。
	■筋力低下	■寝返り ■起きあがり ■立ちあがり ■片足での立位 ■歩行	■支えが必要	介助なしで安全に離床し、生活全般を自ら行えることを目指す。	軽度の脳梗塞で、立ちあがりが困難。また両下肢筋力が低下しており、歩き出しの不安を解消する。合わせて浴室や玄関にも手すりを設置。	■背上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	歩き出しを助ける環境を用意したので、本人も安心して移動するようになった。
	■他(四肢麻痺)	■寝返り ■起きあがり ■座位保持 ■立ちあがり ■両足での立位 ■片足での立位 ■歩行	■全介助	利用者の生活環境整備と介助者(配偶者)の負担を減らす。	介助者の腰痛予防のため高さ調節を必要とする。また背上げ時に利用者のズレ予防にらくらくモーション機能を導入。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■らくらくモーション ■ベッドサイドレール ■床高最高65cm ■足先角度調節機能	介助時の負担を軽減することが出来た。
	■片麻痺 ■起立性低血圧 ■筋力低下	■起きあがり ■立ちあがり	■つかまれば可	離床、室内の移動を安全に行い、体力の維持を目指す。	立ち上がり時にふらつきが強く、転倒の可能性が大きい。起居動作から立位までの安全性を図る。	■背上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	体力が維持できている。
膝関節症	■関節 痛み・変形 ■他(頻尿)	■歩行	■つかまれば可	夜間の排泄の安全性を確保する。	歩行状態が不安定の為、夜間はポータルトイレを利用。介助バーにて夜間時の移乗の安全性を図る。	■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	夜間自宅トイレまで移動がなくなり、安心して排泄が行えるようになった。
	■関節 痛み・変形	■立ちあがり ■歩行	■支えが必要	動作の痛み軽減、安全性を促すことによって自立性を高める。	立ち上がり時に転倒の危険あり。高さ調節機能と介助バーの併用で、転倒リスクを回避。ベッド周りの伝い歩きには握りやすい形状のボードを選択。	■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	離床時の不安が軽減したとの事。離床回数も増えてきている。
	■関節 痛み・変形 ■他(肥満)	■立ちあがり ■歩行	■つかまれば可	室内の移動を安全確実に行う。動作の負担軽減。	床からの立ち上がり困難。ベッドの高さ調節機能と介助バーに体重を預けることで膝の痛みを軽減し離床を安全確実に行う。歩行時の支持物も必要。	■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	膝の痛みが軽減され、生活空間が拡大した。
	■関節 痛み・変形 ■筋力低下	■起きあがり ■立ちあがり	■つかまれば可	離床環境を整え、ご自身の力での動作を行う。	両膝の屈曲制限あるためベッド高さ調節機能を活用。筋力低下により起きあがり動作も困難なため、必要な範囲でキャッシ機能を活用。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	一部支えが必要だが、動作意欲が高まっている。
リウマチ	■関節 痛み・変形 ■腰痛	■起きあがり	■つかまれば可	起居動作の負担を軽減し、外出意欲を高める。	腰痛による起き上がり時の負担の軽減のため、背上げ機能を活用する。立ちあがり時には、リウマチによる手関節痛があることから、介助バーを利用し動作の安全性を図る。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	動作の痛みを軽減できたことで、ご自身も満足されている。動作機会が増えているとの事。
	■関節 痛み・変形	■立ちあがり ■歩行	■つかまれば可	生活全般を自身の力でできるようにする。	ひじ・肩・膝足関節・手指関節の可動域制限がある。畳からの立ち上がりが困難。関節の可動域制限から立ち上がり時の支持に介助バーを使用し安全性を図る。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	動作時の痛みが軽減され、離床機会が増えている。
	■関節 痛み・変形	■起きあがり ■立ちあがり	■つかまれば可	痛みに配慮することで、トイレでの排泄や浴室での入浴などの行為を継続できるようにする。	体動時に全身の関節の痛みを訴える。手すりにつかまりゆっくり時間をかけると起き上がり、立ち上がりができるが、日によって自力で起きられない時もあるため電動機能と介助バーを活用。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	体調の悪い時でも離床することが可能になった為、ADL、QOLが向上した。
	■関節 痛み・変形 ■こわばり ■他(微熱)	■起きあがり ■立ちあがり	■つかまれば可	離床までの動作(寝返り・起き上がり・立ち上がり)を自ら行い、本人の意欲・状態を維持する。	関節に負担をかけない立ち上がりを行うため介助バーに体を預ける。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	ベッド機能を使い過ぎないよう指導。ご本人も意欲が高い。
骨折	■筋力低下	■起きあがり ■立ちあがり ■歩行	■つかまれば可	離床機会を増やすことで筋力の回復を促す。骨折前の生活レベルに戻す。	術後リハビリを行うが基本動作(起き上がり・立ち上がり・歩行)に不安定さがみられる。支持物を用意し、動作の安全性を図る。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	退院後も積極的に室内活動を行っており、外出の意欲が高まっている。
	■腰痛	■立ちあがり ■両足での立位 ■片足での立位	■つかまれば可	腰に負担をかけず、日常動作が出来ることを目指す。	固定式ベッドでは高さが合わず、体動も困難であるため、HQR機能とつかまる場所を持つ「D」を導入。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■らくらくモーション ■シングアーム介助バー	立ちあがり、体動が容易になり、トイレに行くときも時間がかからず気楽になったとのこと。
	■筋力低下	■起きあがり ■立ちあがり ■歩行	■つかまれば可	基本動作をサポートし、本人の自立性を高める。	歩行が不安定で転倒しやすく起き上がりや立ち上がりがしにくいので、ベッドを利用したいと本人から希望があったため。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■シングアーム介助バー ■楽匠Sシリーズ「ベッド」	動作を自主的に行うようになる。公園への外出を目標にするようになった。
	■筋力低下	■起きあがり ■歩行	■つかまれば可	介助なしで起居し、生活全般を自ら行えることを目指す。	歩行にふらつきあり、屋内で伝い歩きが出来る環境を整える。床からの立ち上がりも動作困難。起居動作には手がかりが必要で、転倒や骨折予防も考慮。夜間は床高を低くして安心して利用したい。	■背上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー ■超低床(20cm) ■楽匠Sシリーズ「ベッド」	用意した福祉用具を利用することによって、安心して動作することができ、状態も改善した。
	■腰痛	■立ちあがり ■片足での立位	■つかまれば可	自分でできることを増やし、自立生活を維持する。	畳からの起きあがり立ちあがりかしづらく、ベッドとハイロー機能が必要。歩き出しが不安なため、介助バーを導入。	■背上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	立ちあがり、起きあがりが容易になり、生活空間の拡大につながり、自立生活を維持している。
	■関節 痛み・変形 ■腰痛	■立ちあがり	■一部介助	体動時の痛みの緩和と、介助なしでの立ちあがりを目指す。	骨粗鬆症と腰椎圧迫骨折の治療中で再発の可能性もある。電動ベッドを導入し、背上げ機能を活用して痛みを緩和させる。高さ調節機能と介助バーを使用し、介助なしで立ちあがりができるようにする。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■らくらくモーション ■シングアーム介助バー	電動アシスト機能を使うことで痛みが軽減されるとの事。動作意欲も高まっている。

■ 特殊寝台 疾病別選定例

傷病名	身体状況	生活機能低下項目	状態	目標(導入理由)	選定理由	推薦機種・機能	維持・改善点
パーキンソン病	■こわばり	■起きあがり ■立ちあがり	■つかまれば可	硬直による起居、立ちあがりの不安定さを補助し、離床を安全、確実に行う。	困難な起居を補助。ふらつきのある立ちあがりを補助。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	動作の安全性が図られている。
	■しびれ	■立ちあがり	■つかまれば可	下肢神経障害から来るしびれによる立ち上がりの不安定感を助け、離床を促進する。	下肢しびれにより困難な立ち上がりを補助。	■昇降機能 ■シングアーム介助バー	動作の不安は、軽減できている。自主的な動作が増えてきている。
	■他(動悸)	■起きあがり	■つかまれば可	体調の変化を考慮し、離床環境、ベッド上の環境を整える。腹圧による血圧上昇を抑えるため、背膝運動機能を用いて腹圧を軽減させる。	日差変動があり体調の悪いとき起居動作が困難となる。腹圧による血圧上昇を抑えるため、背膝運動機能を用いて腹圧を軽減させる。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■らくらくモーション	いざという時の安心感が増したとの事。
	■しびれ	■立ちあがり	■つかまれば可	住環境を整備し、介護負担軽減。ご自身による動作を促す。	下肢に脱力、しびれあり。調子の悪い時に合わせ、立ち上がりを補助。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー ■床高最高65cm	立ち上がり時の不安が軽減。
糖尿病	■しびれ	■起きあがり ■座位保持	■つかまれば可	体調の変化を考慮し、離床環境を整え動作の安全性を図る。	右上肢にしびれあり。日差変動があり体調の悪いとき起居動作が困難となる。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	体調が悪い時の安心感が増した。支持物が必要ないときにはできるだけご自身で動作を行っている。
	■筋力低下 ■他(ふらつき)	■立ちあがり ■両足での立位 ■片足での立位	■つかまれば可	立ち上がり時までの障害を無くすことで、離床後は生活全般を自ら行う。	立ち上がり時までの転倒を防ぐ。	■昇降機能 ■シングアーム介助バー	離床から歩行までの安全性が向上。自主的な動作が増えてきている。
	■起立性低血圧 ■筋力低下	■起きあがり ■立ちあがり	■つかまれば可	起居動作の安全性向上。自主的な動作を促す。	布団からの起き上がり、立ち上がりが困難。立ち上がり時にふらつきが強く、転倒の可能性が大きい。起居動作から立位までの安全性を図る。	■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー ■足先角度調節機能	歩行動作は比較的安定している。離床の不安も軽減している。
	■筋力低下	■寝返り ■起きあがり ■立ちあがり	■つかまれば可	術後の筋力低下を日常生活を行うことで回復し、生活全般の自立を目指す。	起きあがり、立ちあがりを安全に行うために背上げ、高さ調節機能を利用する。寝返り、立ちあがりを安全に行うため支持物を導入する。	■背上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー ■ベッドサイドレール	現状動作の安定性は確保されている。今後の状態も随時確認していく。
頸椎症	■他(背部痛)	■立ちあがり	■つかまれば可	腰痛により立ちあがりが困難で、端座位からの立位にも時間が多くかかってしまい、負担が大きい。電動ベッドの高さ調節機能を活用して立ちあがりやすい高さに設定し、安全かつスムーズに立位から歩行に移行できるように環境をつくる。	腰痛により立ちあがりが困難で、端座位からの立位にも時間が多くかかってしまい、負担が大きい。電動ベッドの高さ調節機能を活用して立ちあがりやすい高さに設定し、安全かつスムーズに立位から歩行に移行できるように環境をつくる。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー ■らくらくモーション	離床から歩行までの安全性が向上。自主的な動作が増えてきている。
	■腰痛	■起きあがり ■立ちあがり	■つかまれば可	離床環境を整備し、生活空間の拡大を目指す。	立ちあがり、起き上がり時に腰の痛みとふらつきがある。腰の痛みの軽減と起き上がり補助のために電動ベッドの背上げ機能を活用する。また立ちあがりから立位までのふらつきをなくすため、立ちあがりしやすい高さに設定し、介助バーを使用する。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー ■らくらくモーション	自主的に離床する機会が増えてきている。
	■腰痛	■起きあがり ■立ちあがり	■つかまれば可	転倒のリスクを軽減し、活動の幅を広げる。	下肢筋力低下と椎間板ヘルニアからくる強度の腰痛により、起居動作は膝を支えながらゆっくりとした動作で行っている。畳からの起居動作の負担が大きく転倒がたびたびある。起居動作の安全性を図る。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー ■らくらくモーション	支持物を利用しながら、ゆっくりではあるが立ち上がり動作を行っている。不安も少なくなったとの事。
	■しびれ ■起立性低血圧	■起きあがり ■立ちあがり ■両足での立位 ■片足での立位	■支えが必要	福祉用具を自身の力で活用し、生活全般の自立を目指す。	ゆっくりとした背上げを行いながら、眩暈を軽減。両足がしっかりと床についた状態で、安全な立ち上がりを確実に行う。どちらも背上げ角度・高さを一定にする為に液晶表示を参考にする。両足にむくみが見られるため、臥床時に足上げを行う。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー ■らくらくモーション ■足先角度調節機能	ベッド機能を活用することで、動作の不安が軽減。ご自身で積極的に離床を行っている様子。
その他(症状)	■呼吸困難	■寝返り ■起きあがり ■立ちあがり ■歩行	■つかまれば可	呼吸苦による動作不安定な状況を補助し、生活全般の自立を目指す。	呼吸困難時の起きあがり補助に背上げ機能を利用。寝返りや立ちあがり時ふらつきの補助に支持物が必要。歩行時ふらつきの補助に支持物が必要。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■ベッドサイドレール	体調の具合によって支持物を活用している。
	■視覚障害	■起きあがり ■立ちあがり	■つかまれば可	視力障害(矯正不可)による不安定な動作を補助し、離床を安全に行う。	立ちあがりを安定させる為、高さ調節機能が必要。起居、立ちあがりを安全に行うために支持物が必要。	■背上げ機能 ■膝上げ機能 ■昇降機能 ■シングアーム介助バー	動作の自主性が見られる。動作の安全性について適宜確認していくことに。
	■認知症		■一部介助	予測不能な動作による事故を防止し、安全にベッドを利用する。	ベッドを自分の判断で操作することが困難なため、手元スイッチ操作禁止機能を活用。誤まれ事故等の防止のため、JIS対応の楽匠Sを採用。夜間ベッドからの転落の危険があるため、床高を低く設定。	■昇降機能 ■手元スイッチ操作禁止 ■超低床(20cm)	ベッド機能を活用することで、動作の不安が軽減。

■ 楽匠Zシリーズ 選定例				
機能	自立支援	身体機能の補助	二次障害の予防	ケアのしやすさ
ラクリア モーション	＜離床しやすい＞ 1) 自分で車いすとベッドが乗り移りがしやすいように、またポータブルトイレで排泄が行えるように、足が下ろしやすく離床しやすいラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ⇒スイングアーム介助バー・アクセスポートなどと併用 2) 骨盤がしっかり立つため、脚をベッドから振り下ろす際に身体を安定させやすくより積極的な離床につながるラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ⇒スイングアーム介助バー・アクセスポートなどと併用 ＜ベッドでの端座位がとりやすい＞ 足先がさがり、端座位に移行しやすいラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ⇒イージーグライドなどと併用	＜循環機能＞ 足先が下がっていることで、心臓のポンプ機能に負担が少ないラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ＜呼吸機能＞ 腹部の圧迫が少なく、胸郭が広がりやすいため、呼吸が楽に行えるラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。	＜床ずれ防止＞ 1) ベッドで上体を起こす際に床ずれ発生リスクの身体の前が少なくラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ⇒床ずれ防止用具・体位変換器などと併用 2) 身体を起こすケアと床ずれ防止の両立のために、背上げの際に仙骨部の体圧が軽減できるラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ⇒床ずれ防止用具・体位変換器などと併用 ＜誤嚥防止＞ ベッドでの背上げの際に腹部圧迫が少なく逆流性の誤嚥をしにくいラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。	＜食事介助＞ 食後の逆流性誤嚥を予防するため、腹部の圧迫が少ない背上げ姿勢がとれるラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ＜身体を起こす＞ できるだけ長い時間身体を起こした姿勢をとっていただくために、身体への負担が少ないラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。
	＜手を使った作業＞ 骨盤がしっかり立ち、背上げ姿勢で手が使いやすい姿勢がとれるラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ＜上体が起こしやすい＞ 背上げ姿勢から上体を起こして、テーブル上で作業が行いやすいラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ⇒サイドテーブル・オーバーベッドテーブルなどと併用	＜栄 養＞ 胃への圧迫が少なく、食事摂取しやすいラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。	＜廃用防止＞ 廃用症候群を防ぐため、より離床しやすいラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ⇒スイングアーム介助バー・アクセスポートなどと併用 ＜腰痛防止＞ 背上げ時に腰部への負担が軽減できるラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。	＜ケアしやすい姿勢＞ リラックスした状態で背上げ姿勢が保てるため、食事介助などのケアが行いやすい、ラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。
「ラクリア」と「らくらく」モーションの切り替え	＜ポジションの使い分け＞ 日中、移乗機会が多い時間帯は移乗しやすい「ラクリアモーション」、休眠時は背中がマットレスにしっかりもたれられる「らくらくモーション」の使い分けが手元スイッチで選択できる楽匠Zシリーズを選んだ。	＜ラクリアとらくらくの使い分け＞ 体調によってらくらくモーションとラクリアモーションの使い分けが可能な楽匠Zシリーズを選んだ。		
ラクリアモーションと背上げ・膝上げの併用	＜離床しやすい＞ ラクリアモーションで上体を起こしたあと、膝高さをさらに下げられることで 離床しやすい楽匠Zシリーズを選んだ。			＜リラックスした姿勢＞ ラクリアモーションを使ってリラックスした姿勢で上体を起こしたあと、さらに背上げ・ひざあがによる姿勢調整が可能な楽匠Zシリーズを選んだ。
「足低」モードへの切り替え（2M）	＜離床しやすい＞ ベッドの背上げを離床に使う際には、脚が振り下ろしやすくなる「足低」モードを選択できる楽匠Zシリーズを選んだ。			
ラクリアモーションと連動背上げの併用（2M）	＜ポジションの使い分け＞ 日中、移乗機会が多い時間帯は移乗しやすい「ラクリアモーション」、休眠時は背中がマットレスにしっかりもたれられる「連動背上げ」の使い分けが手元スイッチで選択できる楽匠Zシリーズを選んだ。			＜ラクリアと連動背上げの使い分け＞ ベッドからの離床時は足が下ろしやすい足（低）モードのラクリアモーション、ベッド上でのケアは背上げ姿勢が安定しやすい連動背上げ、と目的に応じて使い分けが可能な楽匠Zシリーズを選んだ。
メモリー（一旦停止機能）	＜ベッドポジションの再現性＞ 一旦停止することで、起き上がりがしやすい背上げ角度（立ち上がりがしやすいベッド高さ、手が使いやすい背上げ角度など）が再現しやすい「メモリー一旦停止機能」がついた楽匠Zシリーズを選んだ。	＜ベッドポジションの再現性＞ 呼吸が楽な背上げ角度で一旦停止することで、姿勢を再現しやすい「メモリー一旦停止機能」がついた楽匠Zシリーズを選んだ。	＜床ずれ防止と背上げの両立＞ 一旦停止することで、仙骨部への圧迫（床ずれ発生リスク）が少ない背上げ姿勢を再現しやすい「メモリー一旦停止機能」がついた楽匠Zシリーズを選んだ。	ケアしやすい姿勢が共有しやすいように、手元スイッチに「メモリー一旦停止機能」がついている楽匠Zシリーズを選んだ。
ストレッチボトム			＜床ずれ防止と背上げの両立＞ ベッドでの背上げを行う際に身体の前が少なく構造の「ストレッチボトム」が搭載されている楽匠Zシリーズを選んだ。 ＜腹部圧迫軽減＞ ベッドでの背上げの際に腹部圧迫の少ない構造の「ストレッチボトム」が搭載されている楽匠Zシリーズを選んだ。	
内脚ハイロー方式	＜立ち上がりのしやすさ＞ 端座位で足を引き込んで立ち上がりやすいように、ベッド下中央部のフレームがない構造の楽匠Zシリーズを選んだ。			
手元スイッチ液晶表示（ラクリア、2M）	＜ベッドポジションの確認＞ 起き上がりが行いやすい背上げ角度（立ち上がりが行いやすいベッド高さなど）を本人が確認しやすいように、手元スイッチに液晶表示機能付きの楽匠Zシリーズを選んだ。 ＜ベッドポジション情報の共有＞ 起き上がりが行いやすい背上げ角度（立ち上がりが行いやすいベッド高さなど）を介護に携わるスタッフが共有しやすいように、手元スイッチに液晶表示機能付きの楽匠Zシリーズを選んだ。		＜情報共有＞ 本人が飲み込みやすい背上げ角度を再現することで誤嚥が起こりにくくするために、介護者間で情報共有がしやすい手元スイッチに液晶表示のある楽匠Zシリーズを選んだ。	

■ 楽匠Zシリーズ 選定例			
機能	介護負担軽減	安全性への配慮	Q O L 向 上
ラクリア モーション	＜起き上がり介助負担軽減＞ ベッドで背上げをして端座位に移行する際に、足先が下がっていることで脚が下ろしやすいので、ラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ＜ずれ戻し介助負担軽減＞ 本人の身体が足元側にずれると、寝ている位置を修正する介助が大変なため、背上げ時の身体の前が少なくラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。	＜背上げ姿勢の安定＞ 背上げ時の身体の前が少なく、背上げ姿勢が崩れての転倒につながりにくいラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ＜脚振り下ろし時の安定＞ 背上げ姿勢で足先が下がっているために、脚を下ろす際に上半身を前傾させて端座位にしやすいラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。	＜快適な背上げ・姿勢＞ 腹部への圧迫と身体の前が少なく身体の前が下ろしやすいため、そのままリラックスした姿勢がとりやすいラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ＜視界をさえぎらない＞ ベッドでの背上げ姿勢で、できるだけフットボードが視界をさえぎらず、家族の姿が見やすいようにラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。 ＜視界の広がり＞ ベッドでの背上げ姿勢で、頭部を動かしやすく視界が広がるラクリアモーション搭載の楽匠Zシリーズを選んだ。
	ラクリアモーションと背上げ・膝上げの併用		＜快適な姿勢づくり＞ ラクリアモーションで背上げをした後、より快適な姿勢をとるために背上げ・膝上げが単独操作で調整できる楽匠Zシリーズを選んだ。
	「足低」モードへの切り替え（2M）		
	ラクリアモーションと連動背上げの併用（2M）		＜ラクリアと連動背上げの使い分け＞ ベッドからの離床時は足が下ろしやすい足（低）モードのラクリアモーション、ベッド上でのケアは背上げ姿勢が安定しやすい連動背上げ、と目的に応じて使い分けが可能な楽匠Zシリーズを選んだ。
ストレッチ ボトム	＜ずれ戻し介助の軽減＞ 本人の身体が足元側にずれると、寝位置を修正する介助が困難なため、背上げ時に身体の前が少なく構造の「ストレッチボトム」が搭載された楽匠Zシリーズを選んだ。		＜不快感軽減＞ ベッドで身体を起こす際に腹部への圧迫と身体の前による不快感を軽減できる「ストレッチボトム」が搭載された楽匠Zシリーズを選んだ。
	フットボード外側のポケット	＜確実な情報共有＞ 連絡ノートなどの見落としによる情報伝達の漏れや行き違いを防ぐために、連絡ノートがベッドに置いておけるよう、フットサポートにポケットのついた楽匠Zシリーズを選んだ。 ＜情報管理＞ ケアプランや連絡ノートなどベッド周囲にあると便利だが、紛失しないようにしなければならないため、ベッドのフットボードにふたがけできる収納ポケットがついた楽匠Zシリーズを選んだ。	
	電源スイッチのオートオフ	＜不意に動かない＞ 不意のベッド作動による事故を予防するために、使わないときに電源が自動でOFFになる楽匠Zシリーズを選んだ。	
	ボタン押しで電源オン	＜自動OFF・簡単に電源ON＞ 不意のベッド作動による事故を予防するために、使わないときに電源が自動でOFFになり、使用するときの電源ON操作が簡単な楽匠Zシリーズを選んだ。	
手元スイッチ液晶表示（ラクリア、2M）	＜介護情報の共有＞ 起き上がりが行いやすい背上げ角度や立ち上がりが行いやすいベッド高さの設定など、介護者間で共通化できるように、液晶表示のある楽匠Zシリーズを選んだ。	＜液晶表示によるベッドポジションの確認が可能＞ 液晶表示を見ることでベッドの状態が確認できる、液晶表示のある楽匠Zシリーズを選んだ	＜ベッド姿勢が再現しやすい＞ 食事介助や移乗介助などのケアを、いつも同じ環境で行えるように、環境が再現しやすい液晶表示のある楽匠Zシリーズを選んだ。

■ ミオレット・フォーユー 選定理由

症状	配慮が必要な箇所	ベッドに求められる仕様	ミオレットフォーユー選定理由
呼吸器疾患	○臥位状態では、内臓による肺の圧迫が発生。 ○息苦しさ、呼吸困難感 ○腹圧による横隔膜の動きの抑制による酸素摂取量の減少 ○背圧による横隔膜の動きの抑制による酸素摂取量の減少	背上げ機能：臓器を下げ、横隔膜への圧迫を減らし、呼吸を楽にできる。 就寝時に5-10度上げることで呼吸が楽になる。 ※背上げ時に発生する、背圧・腹圧が少ないベッド選定が求められる。 背上げ時に背中がズれると下図の様に身体が丸まってしまう事で、腹圧が掛かり、背圧も掛かる。よって、ズレ難いベッド選定が必要となり、大腿部の長さに合ったもの、骨盤が立ちやすいものが良い。 重度の人は30度以上上げる場合特に背圧腹圧に注意。 昇降機能：ホコリ・ダニ等によるアレルギー防止のため、40cm以上にする。	軽度の方 →フィッティング、ライジングモーション、バックオフ機能でのズレ抑制のあるミオレットForUの2モーターを選定。 重度の方 →さらにランバー機構、ヒップダウン機構により背と骨盤を起こし、体の前へのズレを軽減と背圧の軽減を行い呼吸を楽にするミオレットForUの2モーターか3モーターを選定。
心疾患	○ポンプ機能の低下による脳、下肢への栄養・酸素不足が発生。 ○息切れしやすい ○身体(主に下肢)にむくみが生じる ○立ちくらみを起こす ○息苦しい	背上げ機能：心臓に集まった血液を脚側に下げ心臓の負担を軽減する。 同時に、下肢への血流を促す。 腹圧がかかる事で血圧が上がリ、心臓に負担をかける為、腹圧の少ない背上げができるベッド選定が必要。 脚上げ機能：脚にむくみがある場合は、足先をあげる事で軽減できるが、心臓より足先を上げると逆に負担が掛かるので注意が必要。	5モーション機能により、背と骨盤を起こし、体の前へのズレを軽減でき、腹圧の軽減、背圧の軽減ができるミオレットForUの2モーターか3モーターを選定。 脚にむくみがある場合、3モーターのつま先上げ機能を使用。
浮腫	○栄養不足が原因 ○脚がむくんだ状態は皮膚が弱く床ずれに注意 ○息苦しさなどの心不全症状に気をつける	脚上げ機能：足先を上げる事で、中枢への血流やリンパの流れを促す。 背上げ機能：下肢への血流を促す。 心疾患の方は、心臓より足先を上げると逆に負担が掛かるので注意が必要。	5モーション機能により、背と骨盤を起こし、体の前へのズレを軽減でき、腹圧の軽減、背圧の軽減ができるミオレットForUの2モーターか3モーターを選定。
脳血管疾患	○起き上がりや立ち上がり能力の低下 ○移乗にはベッド用グリップが必須 ○横倒れに注意 ○血管拡張剤を使用している場合は早朝や夜中の起立性低血圧(立ちくらみ)による転倒。	背上げ機能：起き上がり補助。 昇降機能：立ち上がり補助、介助者の腰への負担軽減。 ベッドグリップは必須。 片麻痺の方でも操作が簡単なリモコンの使用。	立ち上がり時の転倒予防の為、片麻痺の方でもより安全に使用できる、自動ロック機能のニーパロを選定。 軽度の方で片手操作が出来る利用者には、1ボタン操作で端座位を取り易い、ライジングモーション機能があるミオレットForUの2モーターを選定。 片麻痺があり、片手操作が困難、かつ自分で操作が出来る利用者には、ダブルマウントリモコンで持ち易く操作し易いミオレットForUを選定。
高血圧	○自力で起き上がる時に血圧が上昇する ○起立性低血圧(たちくらみ)による転倒 ○腹部の圧迫による血圧の上昇 ○長期化している方は心不全にも注意	背上げ機能、昇降機能：自力動作での血圧上昇を抑制する。少しづつゆっくりと動作させ身体をなれさせることが重要。 腹圧が少なく、ズレの少ないベッドを選ぶ。	5モーション機能により背と骨盤を起こし、体の前へのズレを軽減でき、腹圧の軽減、背圧の軽減ができるミオレットForUを選定。 また、ミオレットForUは常に利用者の背と膝の角度が90度以下にならないよう腹圧に配慮した仕様。
誤嚥性肺炎	○背が丸くなると腹圧が上がリ、逆流し易くなる ○食後30分～1時間は背上げの状態を利用する	背上げ機能：飲み込みやすくするため。 背が丸くならないようにするため、ズレの少ないベッド選定が必要。 背上げですごす時間が長い為、背圧、腹圧の少ないベッドが必要。 横倒れに配慮し、ロングタイプのサイドレールかベッド用グリップが必要。 就寝時も5-10度程度上げておくと言液の逆流を抑制できる。	5モーション機能により背と骨盤を起こし、体の前へのズレを軽減でき、腹圧の軽減、背圧の軽減ができるミオレットForUを選定。 また、ミオレットForUは常に利用者の背と膝の角度が90度以下にならないよう腹圧に配慮した仕様。 横倒れを防止するロングタイプサイドレールのBG-96Jを選定。また、起居動作にベッド用グリップが必要であればニーパロを選定。
リウマチ	○関節の動きが制限される ○重度者は体位保持が困難	リモコンを操作し易い形状が必要。 横倒れに配慮し、ロングタイプのサイドレールかベッド用グリップが必要。	ダブルマウントリモコンで持ち易く、操作し易いミオレットForUを選定。 横倒れを防止するロングタイプサイドレールのBG-96Jを選定。また、起居動作にベッド用グリップが必要であればニーパロを選定。
全体	○背圧 ○腹圧 ○体の前へのズレ	どれも利用者には不快な症状。	5モーション機能とつま先上げ機能を活用し、利用者がより快適に過ごせるミオレットForUを選定。

体が前へずれた状態での背上げでは、腰ではなく、背中が曲がついていく為、下記のような症状が出る危険性がある。

□腹部の圧迫

- 血圧上昇→心臓への負荷増大→心疾患、脳内出血、脳梗塞
- 横隔膜の動きをさえぎる→呼吸困難
- 呼吸器疾患→血液中の酸素濃度が低下
- 胃からの逆流→肺に入ると誤嚥性肺炎の危険性

□背圧が上昇

- 肺が圧迫される→呼吸困難

□かかとや臀部の床ずれ部位への圧力が上昇



ミオレットForUのポイント/5モーションの身体効果

□腰の前ズレを防ぐ

- 5モーションの複合的な動きにより、骨盤の後傾や脊椎の後湾を少なくし、脊椎のS字カーブを維持し易くする。その結果リクライニングしても円背になり難くズレにくい為、背圧が軽減され、骨盤の後傾(仙骨座り)が少なくなる。

- 脊椎、内臓、横隔膜への圧迫が少なく、横隔膜の動きを制限しない為、呼吸が楽になる。



■ ミオレット 選定理由

症状	配慮が必要な箇所	ベッドに求められる仕様	ミオレット選定理由
呼吸器疾患	○臥位状態では、内臓による肺の圧迫が発生。 ○息苦しさ、呼吸困難感 ○腹圧による横隔膜の動きの抑制による酸素摂取量の減少 ○背圧による横隔膜の動きの抑制による酸素摂取量の減少	背上げ機能：臓器を下げ、横隔膜への圧迫を減らし、呼吸を楽にできる。 就寝時に5-10度上げることで呼吸が楽になる。 ※本来は背上げ時に発生する、背圧・腹圧が少ないベッド選定が求められる。背上げ時に背中がズれると下図の様に身体が丸まってしまう事で、腹圧が掛かり、背圧も掛かる。よって、ズレ難いベッド選定が必要となり、大腿部の長さに合ったものが良い。 昇降機能：ホコリ・ダニ等によるアレルギー防止のため、40cm以上にする。	軽度の方 →背上げ、昇降機能がある2モーターベッドを選定。 →身体のスレを防止し、腹圧・背圧を軽減させたい場合にはミオレットの2モーターが良い。 重度の方 →身体のスレを防止するミオレットの2モーターおよび3モーターを選定。
心疾患	○ポンプ機能の低下による脳、下肢への栄養・酸素不足が発生。 ○息切れしやすい ○身体(主に下肢)にむくみが生じる ○立ちくらみを起こす ○息苦しい	背上げ機能：心臓に集まった血液を脚側に下げ心臓の負担を軽減する。 同時に、下肢への血流を促す。 腹圧がかかる事で血圧が上がリ、心臓に負担をかける為、腹圧の少ない背上げができるベッド選定が必要。 脚上げ機能：脚にむくみがある場合は、足先をあげる事で軽減できるが、心臓より足先を上げると逆に負担が掛かるので注意が必要。 昇降機能：立ち上がりを無理なく行うため位置調節が必要。	背上げ、昇降機能がある2モーターおよび3モーターベッドを選定。 身体のスレを防止し、腹圧・背圧を軽減させたい場合にはミオレットの2モーターおよび3モーターが良い。 脚にむくみがある場合は3モーターを選定し、適宜クッションなどを利用して足先の位置を調整。
浮腫	○栄養不足が原因 ○脚がむくんだ状態は皮膚が弱く褥瘡に注意 ○息苦しさなどの心不全症状に気をつける	脚上げ機能：足先を上げる事で、中枢への血流やリンパの流れを促す。 背上げ機能：下肢への血流を促す。 心疾患の方は、心臓より足先を上げると逆に負担が掛かるので注意が必要。	背上げ機能がある1モーター、2モーター、3モーターベッドを選定。 脚にむくみがある場合は3モーターを選定し、適宜クッションなどを利用して足先の位置を調整。
脳血管疾患	○起き上がりや立ち上がり能力の低下 ○移乗にはベッド用グリップが必須 ○横倒れに注意 ○血管拡張剤を使用している場合は早朝や夜中の起立性低血圧(立ちくらみ)による転倒。	背上げ機能：起き上がり補助。 昇降機能：立ち上がり補助、介助者の腰への負担軽減。 ベッド用グリップは必須。	立ち上がり時の転倒予防のため、また離床時の介助負担の軽減のためベッド用グリップを選定。 背上げ、昇降機能がある2モーターベッドを選定。 →軽度の方で片手操作が出来る利用者には、1ボタン操作で端座位を取りやすい、ライジングモーション機能があるミオレットの2モーターを選定。
高血圧	○自力で起き上がる時に血圧が上昇する ○起立性低血圧(たちくらみ)による転倒 ○腹部の圧迫による血圧の上昇 ○長期化している方は心不全にも注意	背上げ機能、昇降機能：自力動作での血圧上昇を抑制する。少しづつゆっくりと動作させ身体をなれさせることが重要。 腹圧が少なく、ズレの少ないベッドを選ぶ。	→身体のスレを防止し、腹圧・背圧を軽減させたい場合にはミオレットが良い。ミオレットは常に利用者の背と膝の角度が90度以下にならないよう腹圧に配慮した仕様。
誤嚥性肺炎	○背が丸くなると腹圧が上がリ、逆流し易くなる ○食後30分～1時間は背上げの状態を利用する	背上げ機能：飲み込みやすくするため。 背が丸くならないようにするため、ズレの少ないベッド選定が必要。 背上げですごす時間が長い為、背圧、腹圧の少ないベッドが必要。 横倒れに配慮し、ロングタイプのサイドレールかベッド用グリップが必要。 就寝時も5-10度程度上げておくと言液の逆流を抑制できる。	背上げ機能がある1モーター、2モーター、3モーターベッドを選定。 →身体のスレを防止し、腹圧・背圧を軽減させたい場合にはミオレットが良い。ミオレットは常に利用者の背と膝の角度が90度以下にならないよう腹圧に配慮した仕様。 横倒れを防止するロングタイプサイドレールのBG-96Jを選定。また、起居動作に関し必要に応じてベッド用グリップを用意。

体が前へずれた状態での背上げでは、腰ではなく、背中が曲がついていく為、下記のような症状が出る危険性がある。

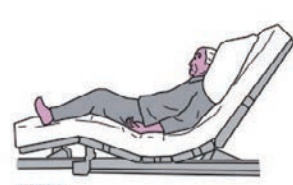
□腹部の圧迫

- 血圧上昇→心臓への負荷増大→心疾患、脳内出血、脳梗塞
- 横隔膜の動きをさえぎる→呼吸困難
- 呼吸器疾患→血液中の酸素濃度が低下
- 胃からの逆流→肺に入ると誤嚥性肺炎の危険性

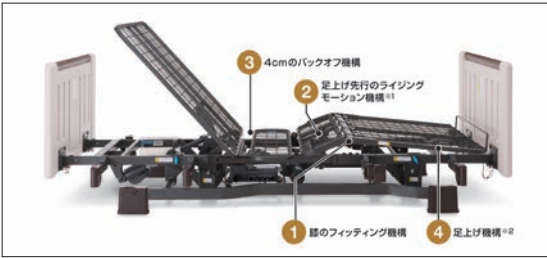
□背圧が上昇

- 肺が圧迫される→呼吸困難

□かかとや臀部の床ずれ部位への圧力が上昇



■ ミオレットII 選定理由			
症状	配慮が必要な箇所	ベッドに求められる仕様	ミオレットフォーユー選定理由
高血圧	○自力での起き上がり、立ち上がり時に血圧が上昇しやすい ○起立性低血圧(たちくらみ)による転倒の危険性 ○スレた状態での背上げによる腹部圧迫→血圧の上昇に注意	○身体のスレ、腹部圧迫に配慮した背上げ機能 機能・昇降機能を使い、少しづつ背を上げ、血管が収縮する時間を取ることが大切。	○膝のフィッティング機構、膝上げ先行のライジングモーション機構で背上げ時の身体のスレを軽減した。 ○背ボトムが後方へ4cm下がりながら背上げを行うバックオフ機構と、背と膝の角度が常に100°以上になる設計で、腹圧にも配慮している。
脳血管疾患	○麻痺による起き上がりや立ち上がり能力、移乗能力低下。 ○マヒが重傷であったり、認知機能や高次脳機能障害がある場合は、自分で手元スイッチの操作ができないこともある。 ○降圧剤など血管拡張作用のある薬を服用している場合は、早朝や夜中の起立性低血圧に注意。	○スレや腹圧・背圧に配慮した背上げ機能:起き上がり補助 ○昇降機能:立ち上がり補助、車いすへの移乗補助。 ○脚上げ機能:背上げ時のスレ抑制、浮腫み対策 ○片麻痺の方でも握りやすく、操作しやすい手元スイッチ。 ○周辺機器:ベッド用グリップ 立ち上がり・移乗補助、転倒も予防	○1ボタン操作でスレが少ない膝上げ先行機能のライジングモーションを搭載している。 ○指に挟むことで、麻痺側でも保持できる手元スイッチ ○立ち上がり時の転倒予防のため、片麻痺の利用者でも安全に使用出来る自動ロック機能のついたベッド用グリップニーパロIIを選定。 ○ひざ落ちなく安心して楽に移乗ができるニーパロIIを選定。
心疾患	○ポンプ機能低下での下肢への栄養・酸素不足により、むくみが生じる。 ○息苦しさ・息切れを生じやすいため、肺での酸素摂取量を十分に確保する必要あり。 ○心臓への負荷が大きくなる高血圧に注意が必要。 ○脳への栄養・酸素不足により、立ちくらみが生じる。	○スレ難く腹圧に配慮した背上げ機能 ※心臓に集まった血液を足側に下げることで、心臓の負担を和らげ、息苦しさを取り除く。 ○足上げ機能:下肢のむくみ改善 ※心臓の位置よりも踵が高くないように注意する。 ○腹圧がかかることで血圧が上昇し、心臓に負担をかけるため、腹圧の少ないベッドを使用。	○血圧が上昇しないよう、背ボトムが下がりながら背上げを行うバックオフ機構と、背と膝の角度が常に100°以上になる設計とで、腹圧にも配慮している。 ○足にむくみがある場合は、足先上げが単独でできる3Mを選定。
脚のむくみ	○皮膚が弱く褥瘡を生じやすくなるので、特にかかとや外くるぶしの除圧に注意する。 ○心疾患がある場合、図の様に心臓よりも足が高くないよう注意する。	○足上げ機能:中枢への血流やリンパの流れを促す。	○フィッティング機構、ライジングモーション機構により身体のスレと背圧を軽減しているため背上げ時の皮膚へのズレかが小さい。 ○足先上げの単独動作ができる3Mを選定。
呼吸器疾患	○臥位では内臓の広がりにより肺の圧迫が生じ、息苦しくなる。 ○背圧・腹圧により横隔膜の動きが抑制され、酸素摂取量が減少。 ○苦しくて動けないような大発作の場合には、オーバーテーブルなどを使用して起座呼吸(きざこぎゅう)を促す。	○横隔膜の動きを抑制しないスレ・背圧・腹圧に配慮した背上げ機能:臓器を下げることで横隔膜の圧迫を減らし、呼吸を楽にする。※就寝時に背を5度程度上げることで内臓が下がり呼吸が楽になる。 ○背圧・腹圧を生じさせないよう、身体のスレが少ないもの。 ○ホコリ・ダニによるアレルギー防止の為、床から40cm以上に昇降出来るもの。	○背ボトムが下がりながら背上げを行うバックオフ機構と、背と膝の角度が常に100°以上になる設計とで、腹圧に配慮している。 ○端座位での起座呼吸時ベッドからの転落予防のため、ニーパロパッドにより膝が固定できる、ベッド用グリップニーパロIIを選定。※症状が悪い方には、ランバー機能があるForUを推薦します。
リウマチ	○関節の動きが制限されるため、起き上がりや立ち上がり、手元スイッチの操作が困難。 ○特に朝のこわばりが長時間続くことも多く、起き上がりに時間を要する。 ○重度になると、体位保持が困難。	○体への負担が少ない背圧に配慮した背上げ機能:起き上がり補助 ○昇降機能:立ち上がり補助 ○握りやすく操作しやすい手元スイッチ ○安全な立ち上がりのためのベッド用グリップ ○横倒れに配慮し、ベッド用グリップ・ロングタイプのサイドレールを使用。	○手元スイッチはコンパクトで持ちやすく使いやすい ○自動ロック機能で安全に使用でき、ニーパロパッドにより安全に立ち上がりができる、ベッド用グリップニーパロIIを選定。
●3つの機構による背圧・腹圧・身体のスレの軽減 ①フィッティング機構 利用者の膝位置に合わせてボトムの曲がる位置を調整出来ることで、足方向へのスレを抑制。 ②バックオフ機構 背ボトムが後方にスライドすることで、腹部や背中の圧迫感を軽減。背上げ後に5度ほど下げることで背圧を大幅に軽減可能 ③ライジングモーション機構 膝上げ先行の理想的な背上げにより足方向へのスレを抑制。 ●足先上げ機能 足先をあげることでより脚のむくみを軽減。特に心疾患の人に有効。バーを外すだけの簡単切り替え。 ●使いやすい手元スイッチ 2つの土台で床から浮くことで、握力の弱った方でも、持ち上げやすく、手にかけるだけ・指の間に挟むだけで簡単に保持が可能。 ●ベッド用グリップ ニーパロII 45°毎の自動ロック機能で、ロックのかけ忘れによる転倒事故を防止。パッドに膝を当てることができ、立ち上がりや、移乗がより安心安全に行える。 ●使いやすい手元スイッチ			



■ 特殊寝台付属品 選定理由		
品 名	品 番	選 定 理 由
ベッドサイドレール	KS-161Q・171Q	・利用者のベッドからの転落防止、寝具の落下防止のため ・JIS認証商品である楽匠Sシリーズの適合付属品のため
ベッドサイドレール	KS-151Q	・介助バーとの併用により、夜間における利用者のベッドからの転落防止のため ・JIS認証商品である楽匠Sシリーズの適合付属品のため
スイングアーム介助バー	KS-096A	・車いすへの移乗や立ち上がり動作を補助するため ・スイングアーム部分のレバーがダブルロックになっており、誤操作を予防しているため ・JIS認証商品である楽匠Sシリーズの適合付属品のため
キャスター	KQ-P90C	・室内の清掃時に介護者がベッドを移動しやすくするため ・訪問介護を受ける際、処置の関係でベッドを移動するため ・JIS認証商品である楽匠Sシリーズの適合付属品のため
ハイトスペーサー	KQ-P90H	・キャスター付きベッドサイドテーブルや床走行式リフトを使用するため ・JIS認証商品である楽匠Sシリーズの適合付属品のため
キャスター付ハイトスペーサー	KQ-P90CH	・キャスター付きベッドサイドテーブルや床走行式リフトを使用するため ・JIS認証商品である楽匠Sシリーズの適合付属品のため
サイドサポート	KA-038・037AR・037AL	・サイドレールの圧迫感を取り除き、かつ寝具の落下防止のため
延長フレーム	KQ-P92L・90L	・長身者への対応のため
延長マットレス	KE-551L 等	・長身者への対応のため
オーバーテーブル	KQ-060L・060M	・ベッド上で食事をするため ・ベッド上で読書をするため
ベッドサイドテーブル	KF-195・192	・ベッド上で食事をするため ・ベッド上で読書をするため ・利用者が自分自身でベッド上にテーブルを移動するため
IVポール	KC-56	・ベッド上で点滴を行うため
IVポールホルダー	KQ-P90V	・楽匠SシリーズのセーフティラウンドボードタイプでIVポールを使用するため
リハビリテーブル	KF-840	・端座位の状態で、食事をするため ・端座位の状態で、読書をするため ・端座位の際、テーブルに肘を置いて安定させたいため
オーバーベッドテーブル	KF-832LA	・ベッド上で食事をするため ・ベッド上で読書をするため
イージーグライド	M、S、SS	・ベッドから車いす、または車いすからベッドに座ったままの状態に移乗するため
立てるんバー	KQ-91	・ベッドからの起きあがり立ちあがりを補助するため ・車いすへ移乗支援のため
プレグラーマットレス	KE-551Q 等	・端座位で身体を安定させるため ・硬めのマットレスで、ベッド上の寝返りをしやすくするため ・硬めのマットレスで、ベッドからの立ち上がりをしやすくするため ・沈み込みによる腰痛を軽減するため ・選定したベッドのキューマラインボトムに適合するマットレスのため
エバーフィットマットレス (清拭タイプ)	KE-521Q 等	・身体にかかる圧力を分散させるため(ソフトフィット面) ・清拭消毒対応により、清潔な状態を保持するため
エバーフィットマットレス (洗浄タイプ)	KE-571Q 等	・身体にかかる圧力を分散させるため(ソフトフィット面) ・発汗の多い利用者に対し、通気性のあるマットレスのため
サウンドスリープサポーター『μ(ミュー)』	CR531 等	・発汗が多くムレによって皮膚がふやけているため、通気性のあるマットレスを選定 ・ベッドの端に座る際に足元が接地して安定するよう、薄型のマットレスを選定

■ 床ずれ防止用具 選定理由	
品 名	選 定 理 由
ここちあ	・身体各部位に応じて適切な内圧にコントロールしてくれるため ・かかと部を低圧化できるため ・端座位の際、「しっかりモード」へ速やかに移行できるため ・ポンプが内蔵されているので、ベッド周りの環境整備に効果的なため
オスカー	・身体状態に応じて簡単に間違いないのいない設定ができる、自動フィッティング機能のある厚手のエアマットレスのため ・骨突出や下肢拘縮などの床ずれ発生リスクや難治性の床ずれに対して、体圧分散や除圧性能の高さを優先した、厚手のエアマットレスのため ・介護のしやすさを考慮し、厚手のエアマットレスの中でも安定感があるため ・人手での体位変換による介護負担を軽減。老老介護で体位変換が困難なとき又夜間の体位変換による睡眠の阻害を防ぐため、自動体位変換機能付きの厚手のエアマットレスのため ・汗を多くかく場合、体圧分散や除圧性能が高く、「むれ対策」ができる厚手のエアマットレスのため ・体圧分散式マットレス特有の冷たさを防ぐため、体圧分散や除圧性能が高く、特に「ひえ対策」に優れた厚手のエアマツトレスのため
グランデ	・身体状態に応じて簡単に間違いないのいない設定ができる、自動フィッティング機能のある厚手のエアマットレスのため ・身体状態が変化しやすいため、身体状態に応じた厚さの変更ができる薄手のエアマットレスを選定する。 ・骨突出や下肢拘縮などの床ずれ発生リスクや難治性の床ずれに対して、体圧分散や除圧性能の高さを優先した、厚手のエアマットレスのため ・難治性の床ずれに対して、体圧分散や除圧性能の高さを優先した、厚手のエアマットレスなため ・介護のしやすさやベッド上での動きやすさを考慮し、厚手のエアマットレスの中でも安定感があるため ・汗を多くかく場合、体圧分散や除圧性能が高く、「むれ対策」ができる厚手のエアマットレスのため
アドバン	・身体状態が変化しやすく痛みもある場合、体圧分散や除圧性能が高く、かたさや動作の選択ができる厚手のエアマツトレスのため ・骨突出や下肢拘縮などの床ずれ発生リスクがあるとき、体圧分散や除圧性能の高さを優先した、厚手のエアマットレスのため ・難治性の床ずれに対して、体圧分散や除圧性能の高さを優先した、厚手のエアマットレスなため ・介護のしやすさやベッド上での動きやすさを考慮し、厚手のエアマットレスの中でも安定感があるため ・汗を多くかく場合、体圧分散や除圧性能が高く、「むれ対策」ができる厚手のエアマットレスのため
クレイド	・人手での体位変換による介護負担を軽減。老老介護で体位変換が困難なとき又夜間の体位変換による睡眠の阻害を防ぐため、自動体位変換機能付きの厚手のエアマットレスのため ・身体状態が変化しやすく痛みもあるため、体圧分散や除圧性能が高く、かたさや動作の選択ができる厚手のエアマツトレスを選定するため ・骨突出や下肢拘縮などの床ずれ発生リスクや難治性の床ずれに対して、体圧分散や除圧性能の高さを優先した、厚手のエアマットレスのため ・難治性の床ずれに対して、体圧分散や除圧性能の高さを優先した、厚手のエアマットレスなため ・介護のしやすさやベッド上での動きやすさを考慮し、厚手のエアマットレスの中でも安定感があるため ・汗を多くかく場合、体圧分散や除圧性能が高く、「むれ対策」ができる厚手のエアマットレスのため
プライムレボ	・身体状態が変化しやすい場合に、体圧分散や除圧性能が高く、かたさや動作の選択ができる薄手のエアマットレスのため ・現在所有しているベッドマットレスを有効活用できる、上敷きタイプのエアマットレスのため ・自力で離床や寝返りはできないが、多少は体を動かせる場合、体圧分散や除圧性能が高く、ベッド上での動きを妨げない安定感もある薄手のエアマットレスのため ・骨突出などの床ずれ発生リスクがあるが、多少は自力で体を動かせる場合、又軽度の床ずれがある場合、体圧分散や除圧性能が高く、ベッド上での動きを妨げない安定感もある薄手のエアマットレスのため ・日中は離床する場合に対応し、体圧分散や除圧性能が高く、立ち上がりや移乗のための端座位の安定感がある薄手のエアマツトレスなため ・汗を多くかく場合、体圧分散や除圧性能が高く、「むれ対策」ができる厚手のエアマットレスのため
ネクサス	・仙骨部などに床ずれがみられるため、体重設定で適切な圧管理ができるタイプのエアマットレスのため ・背を上げた姿勢で過ごす時間があるため、背上げ姿勢でのお尻の部分の底つきと身体のずれ対策モードを搭載しているため ・リハビリをベッド上で実施するため、モードの切替えてマットを硬くして安定した床面を提供できるため ・サイドレールの高さを確保するため、ベッドマットレス不要の機種のため ・緊急時の対応に時間を要する地域のため、停電時にマット内圧を保持できる機種のため

■ 床ずれ防止用具 選定理由	
品 名	選 定 理 由
トライセル	・自力での寝返りが困難で床ずれの防止・ケア環境の整えが必要なため、2層式エアセルで底つきを回避する構造をもつエアマツトレスのため ・背を上げた姿勢で過ごす時間があるため、背上げ姿勢でのお尻の部分の底つきと身体のずれ対策モードを搭載しているため
アクティ	・リハビリをベッド上で実施するため、モードの切替えてマットを硬くして安定した床面を提供できるため ・床面の高さを抑えてサイドレールの高さを確保するため、薄型の機種を選定
インフィニティ	・かかとに床ずれがあるため、足元部分に幅の狭い3層式エアセルのかかと対策の構造をもつ機種のため ・体重が低体重の方も対象範囲とし、適切な圧管理ができる機種のため ・1日のほとんどを背上げ状態で過ごされるため、角度に応じて自動でマットを適切な内圧に調整するオート機能を搭載した機種のため ・身体ケアや介助の際に、モードの切替えてマットを硬く安定した床面にして介助しやすくすることができる機種のため ・マットレスに身体が沈み込み、緊張が強くなるのを防ぐため、過度な沈み込みを防ぐ拘縮対応モードを搭載した機種のため ・体位変換の実施が困難なため、高機能タイプのエアマツトレスを選定 ・緊急時の対応に時間を要する地域のため、停電時にマット内圧を保持できる機種のため ・エアマツトレス使用時に「ひえ」を感じられる時、マツトレス内部を常温に保つ、専用のパッドを備えた高機能タイプのエアマツトを選択（プラス仕様）
ビッグセルEX	・エアセルの膨張収縮の動きに違和感を感じられるため、圧切替の動きを静止する静止モードを搭載した機種のため ・マツトレスに身体が沈み込み、緊張が強くなるのを防ぐため、過度な沈み込みを防ぐ拘縮対応モードを搭載した機種のため ・かかとに床ずれがあるため、足元部分を傾斜面で支えるかかと対策の構造をもつ機種のため ・床ずれのハイリスクな要因がみとめられるため、高機能タイプのエアマツトレスを選定
ディンプルマツトレス	・硬いマツトレスでは腰やかかとの皮膚が赤くなるため、適度な体圧分散性能がありながら寝返りのしやすいマツトレスを選定 ・ベッドの端に座る際に姿勢が安定するように、マツトレスの中央部は適度な体圧分散性能があり、両サイドは硬めに補強されたマツトレスのため ・ベッドの背上げ機能を使用する頻度が高いため、背中の圧迫感や身体のずれに対応したマツトレスを選択 ・床ずれ発生のリスクは高い状態であるが、エアマツトレス使用の希望がないため、体圧分散性能の高いマツトレスを選定
フローラS	・床ずれがみとめられるが、自力での動きを妨げないよう、適度な体圧分散性能がありながら安定感のあるマツトレスを選定 ・発汗が多く、ムレによって皮膚がらやけているため、通気性のあるマツトレスを選定 ・寝返りの回数が減っているため、適度な体圧分散性能がありながら安定感のあるマツトレスを選定
ピュアレックス10	・自力で離床や寝返りはできないが、多少は体を動かせる場合に対応した、体圧分散が高く、ベッド上での動きを妨げない安定感もある薄手の静止型マツトレスのため ・軽度の床ずれがある場合に対応した、体圧分散性が高く、ベッド上での介護がしやすい安定感もある薄手の静止型マツトレスなため ・日中は離床する場合が多い場合に対して、体圧分散性が高く、立ち上がりや移乗のための端座位の安定感がある薄手の静止型マツトレスなため
アクアフロートマツトレス	・アクアセルの効果により、背上げた時の体圧分散性が優れているため ・かかと部の床ずれリスクを軽減できるため ・サイドエッジに硬めの素材を使用しているので、端座位が取り易いため ・厚さ12cmのマツトレスで、サイドレールの有効高さを確保できるため ・ミニサイズのベッドに適合する床ずれ防止マツトレスのため
コンフォケアマツトレス	・体圧分散性と高支持性を両立したマツトレスのため ・摩擦抵抗を緩和する生地で、マツトレス上でのズレ力を軽減できるため ・シーツ交換や掃除の際に、持ち運びがしやすいよう取っ手が付いているため
マキシーフロートマツトレス	・MRSA抗菌加工を施した体圧分散マツトレスのため ・かかと部の床ずれリスクを軽減できるため ・摩擦抵抗を緩和する生地で、マツトレス上でのズレ力を軽減できるため ・シーツ交換や掃除の際に、持ち運びがしやすいよう取っ手が付いているため
パラフロートマツトレス	・洗って干せる布団感覚で使える体圧分散マツトレスのため ・シーツ交換や掃除の際に、持ち運びがしやすいよう取っ手が付いているため

■ 体位変換器 選定理由		
品 名	品 番	選 定 理 由
ペンギンサポート	KE-100S	・おむつ交換の際、両手で作業できるため ・おむつ交換の際、腰への負担を軽減できるため

■ 車いす 選定理由 スタンダードAR自走シリーズ							
品名	特徴	日常生活自立度	特徴	身体能力	特徴	身体状態	選 定 理 由
AR-200B	JIS100k対応+ドラムブレーキ	介助付きでよく外出する	—	自分で立ち上がれる	—	手の支持なしで座位が可能	下肢筋力の低下(麻痺)により、外出をするには長時間の歩行が困難ではあるが、外出の頻度が高く、自分で立ち上がり・移乗ができ、座位も安定しているため、剛性の高いJIS100kg対応のスタンダードタイプを選定しました。
	背折れ	車に積み込む	自走	自分で立ち上がれる	—	円背・関節拘縮などがない	
AR-500	スイングアウト	②居室内を足こぎで移動する	肘跳ね上げ&スイングアウト	①移乗に一部介助が必要	—	手の支持なしで座位が可能	①自分で立ち上がることが困難なため、介助者の移乗介助の負担を軽減できるよう、多機能タイプを選定しました。
	JIS100k対応+ドラムブレーキ	介助付きで外出することもある	肘跳ね上げ&スイングアウト	②片まひの人など、自分で横にスライドして移乗できる			
	背折れ	車に積み込む	自走	自分でこげる	—	円背・関節拘縮などがない	②自分で立ち上がることは困難ではあるが、居室内で足こぎでの移動ができ、また自分で横スライドすれば移乗できるため、足こぎ移動のしやすさと移乗のしやすさを考慮し、多機能タイプを選定しました。

スタンダードAR介助シリーズ							
品名	特徴	日常生活自立度	特徴	身体能力	特徴	身体状態	選 定 理 由
AR-300	JIS100k対応+ドラムブレーキ	介助付きでよく外出する	—	自分で立ち上がれる	—	手の支持なしで座位が可能	下肢能力の低下(麻痺)により、外出をするには長時間の歩行が困難ではあるが、自分で立ち上がり・移乗ができ、座位も安定しており、また自分で自走することはできないため、スタンダード介助タイプを選定しました。
	背折れ	車に積み込む	介助	自分でこげない	—	円背・関節拘縮などがない	
AR-600	スイングアウト	②居室内を足こぎで移動する	肘跳ね上げ&スイングアウト	①移乗に一部介助が必要	—	手の支持なしで座位が可能	①自分で立ち上がることが困難であり、自分で自走することができないため、介助者の移乗介助の負担を軽減できるよう、多機能の介助タイプを選定しました。
	JIS100k対応+ドラムブレーキ	介助付きでよく外出する	肘跳ね上げ&スイングアウト	②自分で横にスライドして移乗できる			
	背折れ	車に積み込む	介助	自分でこげない	—	円背・関節拘縮などがない	②自分で立ち上がることは困難ではあるが、居室内で足こぎでの移動ができ、また自分で横スライドすれば移乗できるため、足こぎ移動のしやすさと移乗のしやすさを考慮し、多機能タイプを選定しました。

ARモジュール自走シリーズ							
品名	特徴	日常生活自立度	特徴	身体能力	特徴	身体状態	選 定 理 由
AR-900 (自走)	スイングアウト	⑤居室内を足こぎで移動する	肘跳ね上げ&スイングアウト	①～④座位による移乗で一部介助が必要	背張り調整&肘掛高さ調整	①手で身体を支えないと座位保持できない	①座位による移乗介助が必要であり、手で支えないと座位保持できない身体状態であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の座位の安定化を考慮し、背張り調整機能と肘掛け高さ調節機能の付いたモジュールタイプを選定しました。
						②褥瘡のリスクがある	
	ドラムブレーキ	介助付きで外出することもある	肘跳ね上げ&スイングアウト	⑤片まひの人など、自分で横にスライドして移乗できる	背張り調整	③軽度の円背である	③座位による移乗介助が必要であり、且つ軽度の円背であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の座位の安定化を考慮し、背張り調整機能の付いたモジュールタイプを選定しました。
						④長身(170cm以上)である	
AR-900 (介助)	スイングアウト	⑤居室内を足こぎで移動する	肘跳ね上げ&スイングアウト	①～④座位による移乗で一部介助が必要	肘掛高さ調整	②褥瘡のリスクがある	②座位による移乗介助が必要であり、且つ褥瘡のリスクのある身体状態であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の褥瘡のリスクを考慮し、背張り調整機能と肘掛高さ調整機能の付いたモジュールタイプを選定し、クッションを併用することにした。
	ドラムブレーキ	介助付きで外出することもある	肘跳ね上げ&スイングアウト	⑤片まひの人など、自分で横にスライドして移乗できる		③軽度の円背である	
AR-900 (介助)	背折れ	車に積み込む	自走	自分でこげる	高床	④長身(170cm以上)である	④座位による移乗介助が必要であり、且つ長身の男性であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の座位の安定化を考慮し、座面を高く設定できるモジュールタイプを選定しました。
	背折れ	車に積み込む	自走	自分でこげる		④長身(170cm以上)である	

ARモジュール介助シリーズ							
品名	特徴	日常生活自立度	特徴	身体能力	特徴	身体状態	選 定 理 由
AR-900 (介助)	スイングアウト	⑤居室内を足こぎで移動する	肘跳ね上げ&スイングアウト	①～④座位による移乗で一部介助が必要	背張り調整&肘掛高さ調整	①手で身体を支えないと座位保持できない	①座位による移乗介助が必要で自分で自走できず、手で支えないと座位保持できない身体状態であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の座位の安定化を考慮し、背張り調整機能と肘掛け高さ調節機能の付いたモジュールタイプの介助タイプを選定しました。
					肘掛高さ調整	②褥瘡のリスクがある	
	ドラムブレーキ	介助付きで外出することもある	肘跳ね上げ&スイングアウト	⑤自分で横にスライドして移乗できる	背張り調整	③軽度の円背である	③座位による移乗介助が必要で自分で自走できず、且つ軽度の円背であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の座位の安定化を考慮し、背張り調整機能の付いたモジュール介助タイプを選定しました。
						④長身(170cm以上)である	
AR-900 (介助)	スイングアウト	⑤居室内を足こぎで移動する	肘跳ね上げ&スイングアウト	①～④座位による移乗で一部介助が必要	肘掛高さ調整	②褥瘡のリスクがある	②座位による移乗介助が必要で自分で自走できず、且つ褥瘡のリスクのある身体状態であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の褥瘡のリスクを考慮し、背張り調整機能と肘掛高さ調整機能の付いたモジュールの介助タイプを選定し、クッションを併用することにした。
	ドラムブレーキ	介助付きで外出することもある	肘跳ね上げ&スイングアウト	⑤自分で横にスライドして移乗できる		③軽度の円背である	
AR-900 (介助)	背折れ	車に積み込む	介助	自分でこげない	高床	④長身(170cm以上)である	④座位による移乗介助が必要で自分で自走できず、且つ長身の男性であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の座位の安定化を考慮し、座面を高く設定できるモジュールタイプを選定しました。
	背折れ	車に積み込む	介助	自分でこげない		④長身(170cm以上)である	

■ 車いす 選定理由 ネクストコアシリーズ							
品名	特徴	日常生活自立度	特徴	身体能力	特徴	身体状態	選 定 理 由
NEXT-51B NEXT-61B	スイングアウト	⑤狭い居室内を足こぎで移動する	肘跳ね上げ&スイングアウト	①～④座位による移乗で一部介助が必要	背張り調整&肘掛高さ調整	①手で身体を支えないと座位保持できない	①座位による移乗介助が必要であり、手で支えないと座位保持できない身体状態であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の座位の安定化を考慮し、背張り調整機能と肘掛け高さ調整機能の付いたモジュールタイプを選定しました。
					肘掛け高さ調整	②褥瘡のリスクがある	
	ドラムブレーキ	介助付きで外出することもある	肘跳ね上げ&スイングアウト	⑤自分で横にスライドして移乗できる	背張り調整	③軽度の円背である	②座位による移乗介助が必要であり、且つ褥瘡のリスクのある身体状態であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の褥瘡のリスクを考慮し、背張り調整機能と肘掛高さ調整機能の付いたモジュールタイプを選定し、クッションを併用することにした。
NEXT-50B NEXT-60B	背折れ	車に積み込む	NEXT-61B 介助 NEXT-51B 自走	自分でこげない	高床	④長身(170cm以上)である	③座位による移乗介助が必要であり、且つ軽度の円背であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の座位の安定化を考慮し、背張り調整機能の付いたモジュールタイプを選定しました。
	スイングアウト	⑤狭い居室内を足こぎで移動する	肘跳ね上げ&スイングアウト	①～④座位による移乗で一部介助が必要	背張り調整&肘掛高さ調整	①手で身体を支えないと座位保持できない	④座位による移乗介助が必要であり、且つ長身の男性であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の座位の安定化を考慮し、座面を高く設定できるモジュールタイプを選定しました。
NEXT-50B NEXT-60B	スイングアウト	⑤狭い居室内を足こぎで移動する	肘跳ね上げ&スイングアウト	①～④座位による移乗で一部介助が必要	肘掛け高さ調整	②褥瘡のリスクがある	②座位による移乗介助が必要で自分で自走できず、且つ褥瘡のリスクのある身体状態であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の褥瘡のリスクを考慮し、背張り調整機能と肘掛高さ調整機能の付いたモジュールの介助タイプを選定し、クッションを併用することにした。
						③軽度の円背である	
	ドラムブレーキ	介助付きで外出することもある	肘跳ね上げ&スイングアウト	⑤自分で横にスライドして移乗できる	背張り調整	③軽度の円背である	③座位による移乗介助が必要で自分で自走できず、且つ軽度の円背であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の座位の安定化を考慮し、背張り調整機能の付いたモジュールの介助タイプを選定しました。
NEXT-50B NEXT-60B	背折れ	車に積み込む	NEXT-60B 介助 NEXT-50B 自走	自分でこげない	低床&座奥ショート	④小柄(140cm台～155cm)である	④座位による移乗介助が必要で自分で自走できず、小柄であるため、介助者の移乗介助の負担を軽減と利用者の座位の安定化を考慮し、低床&座奥ショート(短い)のモジュールの介助タイプを選定しました。
						④小柄(140cm台～155cm)である	⑤自分で立ち上がることは困難ではあるが、車いすで足こぎでの移動ができ、また自分で横スライドすれば移乗できるため、狭い居室内で足こぎ移動のしやすさと移乗のしやすさを考慮し、スリムタイプ多機能のモジュールタイプを選定しました。

オアシスリクライニング介助シリーズ							
品名	特徴	日常生活自立度	特徴	身体能力	特徴	身体状態	選 定 理 由
OS-12TR (介助)	スリム&コンパクト	①～④主に狭い居室内で介助を必要とした上での生活をしている	肘掛け上下式&スイングアウト	一人もしくは二人介助による移乗で一部介助・全介助が必要	リクライニング+骨盤ティルト	①筋力の低下や麻痺により座位姿勢を保持できない(前や横に倒れる)	①主に居室内で介助を必要とした生活をしており、自分では座位の保持ができない(前や横に倒れてしまう)身体状態であるため、居室内での移動のしやすさと利用者の座位の安定化を考慮し、スリムタイプの骨盤ティルト(お尻が落ちる)機能付リクライニング車いすを選定しました。
	肘掛け水平	④食事介助時にテーブルを使用する			リクライニング+骨盤ティルト	②股関節が90°まで曲がらず、すべり座りになってしまう。	
	ドラムブレーキ	介助付きで外出することもある	介助	自分でこげない	リクライニング+骨盤ティルト+背張り調整	③強度の円背である	②主に居室内で介助を必要とした生活をしており、股関節が90°まで曲がらないことですべり座りになってしまうため、居室内での移動のしやすさと、利用者の股関節が曲がる角度まで背もたれを倒すことによる座位の安定化を考慮し、スリムタイプの骨盤ティルト(お尻が落ちる)機能付リクライニング+背張り調整付車いすを選定しました。
	背折れ	車に積み込む			リクライニング+骨盤ティルト	④嚥下障害があり、嚥下食を摂取しているため、居室内での移動のしやすさと、利用者の腹圧の軽減(長い食事時間の座位の安定化)を考慮し、スリムタイプの骨盤ティルト(お尻が落ちる)機能付リクライニング車いすを選定しました。	

■ 車いす 選定理由									超軽量エアリアルシリーズ								
品名	特徴	日常生活自立度	特徴	介護者	特徴	身体能力	特徴	身体状態	選定理由								
MW-SL1B	ドラムブレーキ	介助付きでよく外出する	軽量	非力な女性や高齢者	—	自分で立ち上げられる	—	手の支持なしで座位が可能	主な介護者が高齢者であるため、持ち運びの負担を軽減できるよう、軽量タイプを選定しました。								
	背折れ	車に積み込む			自走	自分でこげる	—	円背・関節拘縮などがない									
MW-SL2B	ドラムブレーキ	介助付きでよく外出する	軽量	非力な女性や高齢者	—	自分で立ち上げられる	—	手の支持なしで座位が可能	主な介護者が高齢者であり、利用者も自走することができないため、介護者の更なる持ち運びの負担を軽減できるよう、軽量の介助タイプを選定しました。								
	背折れ	車に積み込む			介助	自分でこげない	—	円背・関節拘縮などがない									
MW-SL3B	スイングアウト	居室内を足こぎで移動する	軽量	非力な女性や高齢者	肘跳ね上げ&スイングアウト	①移乗に一部介助が必要	—	手の支持なしで座位が可能	①主な介護者が高齢者であり、利用者もご自身で立ち上がることが困難なため、介護者の持ち運びと移乗介助の負担を軽減できるよう、軽量の多機能タイプを選定しました。 ②主な介護者が高齢で、利用者はご自身で横スライドすれば移乗でき、居室内での足こぎ走行もできるため、介護者の持ち運びの負担軽減と、利用者の移乗のしやすさと足こぎ移動のしやすさを考慮し、軽量の多機能タイプを選定しました。								
	ドラムブレーキ	介助付きでよく外出する			肘跳ね上げ&スイングアウト	②片足の人など、自分で横にスライドして移乗できる	—	—									
	背折れ	車に積み込む			自走	自分でこげる	—	円背・関節拘縮などがない									
MW-SL4B	スイングアウト	居室内を足こぎで移動する	軽量	非力な女性や高齢者	肘跳ね上げ&スイングアウト	①移乗に介助が必要	—	手の支持なしで座位が可能	①主な介護者が高齢者であり、利用者もご自身で立ち上がることが困難なため、介護者の持ち運びと移乗介助の負担を軽減できるよう、軽量の多機能タイプを選定しました。 ②主な介護者が高齢で、利用者はご自身で横スライドすれば移乗でき、居室内での足こぎ走行もできるため、介護者の持ち運びの負担軽減と、利用者の移乗のしやすさと足こぎ移動のしやすさを考慮し、軽量の多機能タイプを選定しました。								
	ドラムブレーキ	介助付きでよく外出する			肘跳ね上げ&スイングアウト	自分で横にスライドして移乗できる	—	—									
	背折れ	車に積み込む			介助	自分でこげない	—	円背・関節拘縮などがない									
MW-SL5B	低床&スイングアウト	居室内を足こぎで移動する	軽量	非力な女性や高齢者	肘跳ね上げ&スイングアウト	①移乗に一部介助が必要	低床&座奥ショート	小柄である	①主な介護者が高齢者であり、利用者もご自身で立ち上がることが困難かつ、小柄であるため、介護者の持ち運びと移乗介助の負担の軽減と、小柄な体にフィットさせることで座位の崩れを防ぐことを考慮し、軽量多機能・低床・座奥ショート(短い)タイプを選定しました。 ②主な介護者が高齢者で、利用者はご自身で横スライドすれば移乗でき、居室内での足こぎ走行もできるため、介護者の持ち運びの負担軽減と、利用者の移乗のしやすさと足こぎ移動のしやすさを考慮し、軽量多機能・低床タイプを選定しました。								
	ドラムブレーキ	介助付きで外出することがある			肘跳ね上げ&スイングアウト	②片足の人など、自分で横にスライドして移乗できる	—	手の支持なしで座位が可能									
	背折れ	車に積み込む			自走	自分でこげる	—	円背・関節拘縮などがない									
MW-SL6B	低床&スイングアウト	居室内を足こぎで移動する	軽量	非力な女性や高齢者	肘跳ね上げ&スイングアウト	移乗に介助が必要	低床&座奥ショート	小柄である	主な介護者が高齢者であり、利用者もご自身で立ち上がることも自走も困難かつ、小柄であるため、介護者の更なる持ち運びと移乗介助の負担を軽減と、小柄な体にフィットさせることで座位の崩れを防ぐことを考慮し、軽量多機能・低床・座奥行ショート(短い)・介助タイプを選定しました。								
	ドラムブレーキ	介助付きで外出することがある			肘跳ね上げ&スイングアウト	自分で横にスライドして移乗できる	—	手の支持なしで座位が可能									
	背折れ	車に積み込む			介助	自分でこげない	—	円背・関節拘縮などがない									

車いす 選定理由			マイチルトシリーズ				
品名	特徴	日常生活自立度	特徴	身体能力	特徴	身体状態	選定理由
MH-CR3D	スリム&コンパクト	①～⑤主に狭い居室内で介助を必要とした上での生活をしている	肘掛け上下式&スイングアウト	一人もしくは二人介助による移乗で一部介助・全介助が必要	リクライニング+骨盤ティルト	①筋力の低下や麻痺により座位姿勢を保持できない(前や横に倒れる)	①主に居室内で介助を必要とした生活をし、且つ外出をする機会もある方で、自分では座位の保持ができない(前や横に倒れてしまう)身体状態であるため、居室内での移動のしやすさ、外出時の介助者の負担軽減と利用者の座位の安定化を考慮し、スリム&折りたたみ式のティルト&リクライニングタイプを選定しました。
	肘掛け水平	④食事介助時にテーブルを使用する			リクライニング+骨盤ティルト	②股関節が90°まで曲がらず、すべり座りになってしまう。	
	ドラムブレーキ	介助付きで外出することもある	介助	自分でこげない	リクライニング+骨盤ティルト+背張り調整	③強度の円背である	③主に居室内で介助を必要とした生活をし、且つ外出をする機会もある方で、強度の円背によりすべり座りになってしまうため、居室内での移動のしやすさ、外出時の介助者の負担軽減と、利用者の円背に合わせた背もたれ形状を作ることによる座位の安定化を考慮し、背張り調整機能の付いたスリム&折りたたみ式のティルト&リクライニングタイプを選定しました。
	背折れ	車に積み込む			リクライニング+骨盤ティルト	④嚥下障害があり、胃ろう、もしくはゼリー食などの嚥下食を摂取している	

■ 軽量車いすふわりす選定理由	
品名	選定理由
ふわりす	①軽量車いすを選定することにより、介護者の負担を軽減させる。 ②軽量車いすが良いが、立ち上がりの際にプッシュアップの動作が必要。アームサポートの長い軽量車いすを選定することにより、立ち上がり動作を可能にした。 ③ご利用者の体重が〇〇kgのため、軽量車いすでも100kg耐荷重の車いすを選定。 ④外出機会が多いので、軽量タイプで介助ブレーキがバンドブレーキ式で、駐車ブレーキが別可動で屋外でも安全に使用できる車いすを選定。

■ 電動カート/電動車いす選定理由	
品名	選定理由
遊歩パートナー	●導入前(課題) 加齢とともに自動車の運転に不安を覚えていた ●目 標 長期:いつまでも自宅で生活したい 短期:買物は自分で欲しいものを買いたい ●選定の理由 目的地が多岐にわたるため長距離走行に適した電動カートを選定
JWアクティブ	●導入前(課題) 自宅前がゆるやかな坂道のため年々、手動車いすの移動に負担を感じていた。 ●目 標 長期:出来る限りひとりで外出したい 短期:近所の土手に散歩に行きたい ●選定の理由 自宅前の坂道(4度)の上り下りを安全に走行できる機種を選定
アシストホイール	●導入前(課題) 介護者(妻)の体力低下によって、車いすの介助に危険が伴うようになってきた ●目 標 長期:気候の良くなれば旅行に行きたい 短期:ふたりで散歩に行きたい ●選定の理由 介護者の負担軽減と折り畳んで移動ができる機種を選定

■ 車いす付属品(クッション)選定理由	
品名	選定理由
アウルREHAレギュラー	・4cmと薄く、足こぎされる方にも妨げにならずご利用いただけますので、ご利用者様の日常生活動作の維持に繋がります。 ・床ずれ等、車いす生活になられた方の二次障害の予防にご利用頂けます。
アウルREHAハイ	・坐骨の骨突出等、床ずれのリスクが高くなってしまった方の、床ずれ予防に効果的です。 ・調整不要の為、老老介護の現場等ご自宅でも安心してご利用いただけます。
アウル40プラスレザー	・前上がり形状により軽い前ズレも抑制でき、車いす上の座位の安定に効果的です。 ・前ズレを抑制することで、車いすからずり落ちを抑制し骨折等のリスクを軽減します。 ・車いす生活になられた方の二次障害、三次障害の予防に繋がります。
アウルREHA3Dハイ	・3D形状により骨盤をホールド。姿勢保持と効果的な体圧分散性を発揮します。 ・姿勢が崩れ易くなった方の姿勢を支えることで、胸の胸郭を広げて呼吸機能の向上、誤嚥の回数の低減にも繋がります。
アウルサポートシートクッション バッククッション	・シートとバッククッションにより効果的に身体を支え体幹バランスを支えます。 ・体幹を支えることで呼吸機能の向上、誤嚥の回数の低減に繋がる他、日常生活動作の向上に繋がります。

■ 車いす付属品(クッション)選定理由	
品名	選定理由
ベスポジェルクッション	・車いす使用時にお尻の痛みがあるため、足こぎの動きを損なわないよう前面が沈み込む機種を選定 ・長時間の座位による身体のずれを防ぎ姿勢が安定するように、表面のジェルで接触面積を広げホールドし、お尻の後ろ側を適度に沈み込ませることで前ズレを防止する構造のクッションを選定 ・日によって、または環境によって状態が変化されるため、状態によって1枚で使い分けができるクッションを選定 ・長時間の座位によるムレによって皮膚がふやけているため、ムレにくい速乾カバーの機種を選定
デュオジェルクッション	・お尻に床ずれがあり、日中は車いすで過ごされるため、体圧分散性能のあるクッションを選定 ・ご自身で座り直す動作が困難なため、体圧分散性能の高いクッションを選定 ・座骨の突出があるため、流動性の高いジェルで、ずれ・摩擦に対応できるクッションを選定

歩行器選定理由	
品 名	選 定 理 由
Mgウォーカー II 型	・下肢筋力が低下しており、歩行の際に杖ではふらつきが見られる為、歩行器を使用する事で転倒予防し安全に生活できるよう選定する。 ・下肢筋力が低下しており歩行時に転倒の危険性が高く、歩行器を利用することにより安全・安楽に歩行できるよう選定。 ・持ち運びを頻繁に行うため軽量タイプで積み下ろしの軽減負担を図るため選定。
テトラケイン	・歩行状態が不安定な為、着地面積が広い四点杖を使用して、安定した歩行を確保するため。また、他機種と比較し軽量であるため選定。 ・杖を使用する事で歩行が可能となり、下肢筋力の低下を防ぐ。またリハビリも兼ね他機種と比較し軽量であるため選定。 ・下肢筋力の低下があり、つたい歩きにて歩行を行っている為、四点杖を使用し足への負担を軽減して歩行動作を安楽に行う。また、他機種と比較し軽量であるため選定。
アルコーBW型S	・日常生活の中で、仏壇へのお供えやお茶などを運ぶ為、水に強く物が乗るトレイのついた歩行者を選定。カップホルダー付トレイが付いているので運搬にも使用が可能。 ・食事などの配膳や身の回り品を利用者で管理させたいため、トレイ、収納カゴの付いたトレイ付きのものを選定。歩行支援用具としてだけではなく、生活の幅が広がり自立も促せます。 ・ベッド中心の生活が多く、収納や運搬を含めサイドテーブルの代わりになるようなトレイ付のものを選定。左右のグリップでしっかりと支持ができ、後輪のストッパーをかけることで移乗も行えます。 ・近くのスーパーなどに買い物に行く為、物が収納でき歩行支援用具としても使用できるものを選定。ブレーキ、パーキングロック、抵抗器が標準で装備されているため身体状況に合わせて使用でき、クーラーバックが標準で装備されているので食品なども持ち運びできます。

移動用リフト選定理由	
品 名	選 定 理 由
アルコー6000型	●玄関からの出入りの際、上がり框の段差を解消するために選定。段差解消機の中でもかなり小型なため、狭い玄関など小スペースで設置が可能。 ●住まいが賃貸住宅で、玄関先の段差を解消する手すりや踏台の工事が行えない為に選定。据え置き設置タイプなので工事の必要がありません。 ●室内用と屋外用の2種類の車いすを利用しており、玄関の段差を解消するスロープ代わりとして選定。屋内と屋外の間に設置するだけで、手間なく介助者の負担も軽減させることができます。 ●デイサービスに通っているが、玄関の上がり框が高いため、段差解消の手段として選定。今まではヘルパー介助のもと解消していたが、設置後は利用者が座るだけで無理なく解消することができます。
独立宣言エコライト	●症状・状態:変形性頸椎症 四肢に不全マヒがあり、床からの立ち上がり動作が困難。昇降座いすで立ち上がり、手すりにつかまる動作で室内移動が可能となった。 ●症状・状態:腰部脊柱管狭窄症 腰痛・下肢痛がひどく床からの立ち上がりができない。日中は畳、こたつの和式生活を続けたいとの意向が強く、昇降座いすを使用。転倒の危険性がなくなり床からの立ち上がりが可能となった。 ●症状・状態:膝関節症による廃用性筋力低下 立ち上がり時に膝痛で、立ち上がりが困難。昇降座いす導入により、ポータブルトイレでの排泄ができ自立できる。
独立宣言ツイスト	●症状・状態:パーキンソン病 ON・OFF状態がありOFF時は立ち上がり動作が不可能。転倒による骨折や状態の悪化が考えられるため昇降座いすを使用。回転動作により家族の負担軽減にもつながる。
独立宣言ローザ	●症状・状態:認知症による意欲低下 転倒の危険性があり、ふとんでの生活。移乗介護が必要な状況で、低床タイプの昇降座いすを使用することで、負担軽減につながる。
電動介護リフト KQ-771	●車いすやポータブルトイレへの移乗の際、介護者の負担を軽減するため ・使用時の約1/4のスペースに収まるよう折りたたみ、コンパクトに収納できるため

徘徊感知器選定理由	
品 名	選 定 理 由
ワイヤレスピーム式徘徊離床感知器 ADX-540HO	・認知症による徘徊を介助者に通知し、事故を未然に防止するため選定。 ・認知症老人徘徊感知器を利用する事で認知症の利用者の徘徊を未然に防ぎ、家族(介助者)の介護負担の軽減と安心した生活を確保するため選定。 ・住環境上の問題により介護者側が危険の事前察知をできるように選定。
家族コール2・Aタイプ	・ベッドサイドや勝手口に設置したセンサーをご本人が踏むと、ご家族にお知らせします。 ・徘徊行動および2次的な事故発生を防止します。
家族コール2・Bタイプ	・ベッドのマットレス上に設置し、ご本人がベッド上で起き上がると、ご家族にお知らせします。 ・徘徊行動および2次的な事故発生を防止します。
家族コール2・Cタイプ	・ベッドサイドや勝手口に設置したセンサーの照射の範囲内に入ると、ご家族にお知らせします。 ・徘徊行動および2次的な事故発生を防止します。

ケアスロープ 選定理由		
課題となる動作	品 番	選 定 理 由
屋内移動支援	CS-65	底床タイプの車いすを使用中、軽量コンパクトなスロープを使用し、トイレ及び浴室などの段差解消をするために選定
屋外移動支援	CS-100	玄関に約17cmの段差があり、間口が71cmの為、設置可能であり、転倒を防止し介助負担を軽減するために選定。
屋外移動支援	CS-120	玄関に約20cmの段差があり、間口が71cmの為、設置が可能で車いすが安全に移動できるスロープとして選定。
屋外移動支援	CS-150	玄関に約25cmの段差があり、間口が71cmの為、設置が可能で電動車いすが安全に移動できるスロープとして選定。
屋外移動支援	CS-175	玄関に約30cmの段差があり、間口が71cmの為、設置が可能で車いすが安全に移動できるスロープとして選定。
屋外移動支援	CS-200	玄関に約34cmの段差があり、間口が71cmの為、設置が可能で電動車いすが安全に移動できるスロープとして選定。
屋外移動支援	CS-240	玄関に約41cmの段差があり、間口が71cmの為、設置が可能で脱輪防止エッジがあり車いすが安全に移動できるスロープとして選定。
屋外移動支援	CS-J	玄関の間口が狭く、車いすの出入りが困難である為、ベランダからの設置が可能で、高さ約●●cmでの段差が解消できるスロープとして選定。